

## <村松先生の追加資料>

- 1) 死者に70~80歳代の人が多く津波の逃げ遅れの可能性が高いことがわかります  
阪神淡路と若年層は同様な数の犠牲者ですが、高年齢層が圧倒的に高いのが特徴です  
震災のデータ自身は見てもらっておいてもらいます。
- 2) 関東大震災が火災、阪神淡路が倒壊・圧死、東日本大震災では津波による水死  
政府による英語表現は感覚とは全然違う感じです。  
Great East Japan Earthquake では津波は入りません。  
私は East Japan Huge Quake Disasters と言っています。
- 3) 被災地があまり広いこともあって復旧・復興のスピードに大きな違いがあります  
津波被災地の面積だけで、阪神淡路の被災面積の2000倍。ディズニーランド+ディズニーシーを合わせた面積の1万倍です。
- 4) ボランティアはまだまだ必要だが、より細分化し、より多種多様、そして広範にわたっています
- 5) そのために、きめ細かな情報提供が最も重要となっています
- 6) 兵庫県が「東北道ボランティアインフォメーションセンター」を設置したことにより、それを引き継いだ、「ひょうごボランタリープラザ」によるボランティア情報が「ボランティアインフォ」に渡ってそれが、yahoo, gooなどの巨大サイトでボランティア募集につながっています。
- 7) ボランティアによる復旧、復興の象徴が、七ヶ浜再生プロジェクト、そして七ヶ浜復興祭りです。これは来年の海開きを目指しています。  
当初子供たちはみんな海には近づきたがらなかったのですが、この祭りを境に気持ちが切り替わった感じがしています。  
なお、このイベントにも、ひょうごボランタリープラザと、関西のボランティアさんの力が強く貢献しました。